木彫部 7 塑造部 Ш 藤 田 吉 本 口 正 祐 光 平 典 將 造 智 男 力 健 雄 工芸科鋳 工芸科 工芸科 大 藤 飯 西 百 木 鍛 沢 方 彫 田 金部 金部 大 幸 正 部 敏 衛 美 由 夫 雄 祥 茂 夫 梅 武 江 森 山 田 堀 堀 呵 田 菅 節 多 Ш 中 宮 江 越 科 部 次世 馨四郎 弘 政 芳 暎 玄 康

允 夫 郎 治 武

彫刻科

岩

 \mathbf{H}

4

の生徒が卒業した(三月二十四日付)。昭和二十三年中、卒業制作未完成の 卒業制作未完成のため卒業延期中であった左記

日本画科 五月十八日 油 日 区 6 昭和二十三年九月十七日付で工芸科図案部松岡謙造が卒業した。 金 (5) 関 高 浜 末 木 本 々木 画 各科生徒級別現員表 田 広 画 別 科 科 省 昭 文 禎 猛 鈴 本 郎 郎 堂 彦 治 \equiv 彦 磐 吾 科 第 四二 油 六月七日 一年第二年第三年 工芸科図案部 矢 野 築 画 二六 科 博 於菟一 康 二六 四九 勝 正 第四年第五年 六 昭和二十三年 十月十二日 彫刻科塑造部 六月十六日 工芸科鍛金部 田 塩 矢 田当崎 小計 部 五八八 -四月 真 直 秀 行 日 計 健 良 郎 九三 久

工芸科図案部

Щ

寿 部 鎰

治

北

沢 持

秀

郎 雄 誠

倉

藤

悳

科 岸

本

邦

斎

野

口

鎭

近

郎

久保庭

 \equiv

治 寿

松

熊

谷

博 夫

工芸科漆

Ï.

呵

中 田 加

奈須

田

也

治

士: 正

郎

北 武 棚

豊

田

岡 伊

田

誠 進

高 橋

雄 雄

佐

野

吉

光 浩

1091 第3節 昭和23年

東京美術学校を志望する人々へ

し個人の希望や学校の今の狀況などを率直にのべてみたい。 表)。学校の内にいるものの一人として、このことについていろい ろ訊ねられることも多いので、分明していることを記し、 三年度の予科を募集しないことに決定した(二月二十一日官報発 一制の学校教育新体制の線に沿って、 今後の方向について 東京美術学校は本二十 わたく

中に送り出し、 こと。之等のことは家庭の狀況で早く出たいものは一年早く世の 年であるが、優秀な生徒で勉強を続けたいなら、 年本科在学後はいつでも卒業制作を提出して卒業し得るというこ 位数を修得し、各年度の実技試験に合格点を取ったものは満三ケ 他の方面に志してもらった方が國家のためにも、 を課し凡て必修とした。そして之等教課の上でも又人物の上でも もので、基礎学科と、各科別なしに共通基本実技 とおりである。第一に予科一年間は全くの長期入学試驗のような たいという主旨からであった。 或は科の先生の希望に從う)六ヶ年まで在学しても宜しいという と、つまり一年早く卒業出來るわけである。第三に、本科は四ケ と思う。次に本科は四年であるが、 あるということ。從って予科生はずいぶんつらい一年間であった 本科へ進級の資格や素質がないと判断された生徒は除籍し、 終戦後本年度まで、 一方本当に秀れた生徒には充分勉強の機会を與え 從前のやりかたと異っている点は大体次の 別に二十一年度から男女共学制を 学科は單位制とし、 当人のためでも (当人の希望、 (デッサン等) 規定の單 早く

7

小特

学 小

計生

本

科 別

計

七三

九二

八三一〇七

七六七

四

Ξ

六八八

師

節

科

九

九

 $\frac{-}{\bigcirc}$

 \equiv $\overline{\circ}$

七二

七

特別学生

建

築 漆工部

科

本

科 科 科 科 科

 \equiv

二四 一八

八

六四

六四 四

七 Ŧi. Ŧi. 七

=

四八 \equiv

本

選

科

≓

総

計

八四

九五一八三一〇七

一九六八八

六八八

特別研究生

工

鋳金部 鍛金部 彫金部

本 本 本

芸

五. 七

 \equiv

四

二六

二六

一七

 \equiv

科

特別学生 本 本

科

一九

八

四 Ŧî.

七三

七五

図案部

彫刻科

塑造部

特別学生 本

科

八

Ŧi.

 \equiv

四

六

木彫部

科

0

六

二九九

二九

策は次のように公表した。 止された。停止の主旨と今後の入学志望者の心得について、 新制大学への移行計画が進捗したため、 本年度から生徒募集が停 村田良

生徒募集停止

取ってきたのである。